前館長脇田修先生を悼む

栄原　永遠男

平成26年（2014）３月末をもって退職された前館長脇田修先生は、平成30年３月７日に享年86歳にてご逝去されました。心より哀悼の意をささげます。

脇田先生は、平成10年５月に大阪市教育委員会の事務局顧問に就任され、新博物館の構想と関わられることになりました。平成12年３月に財団法人大阪市文化財協会理事、続いて６月に理事長に就任され、さらに翌平成13年11月に大阪歴史博物館館長に就任されました。以来、大阪市文化財協会理事長（平成22年４月からは財団法人大阪市博物館協会会長）と大阪歴史博物館館長という２つの立場で、当館を牽引してこられました。

昭和６年（1931）に大阪の中心部、曽根崎で生まれられた脇田先生は、生粋の大阪人として大阪の歴史・文化に強い関心を持ち続けて来られました。それは、先生の幾多の業績に明らかなところです。また、脇田先生は、狂言や文楽などの大阪の伝統文化に深い造詣をお持ちであり、さまざまな社会的活動を行われるなど、幅の広い活動をなさってこられました。

先生は、これによって培われた幅広い人脈を生かして、開館記念の国際シンポジウム「知の冒険者たち―近世大坂の学問と文化―」を企画・実現され、さらに翌平成14年３月には、日韓文化交流特別展「韓国の名宝」の開催に力を尽くされ、いずれも大きな成果を収められました。

このように、当館は、脇田先生の深く広い学識に導かれて発展してきたといって過言ではありません。ご退職後も、当館を見守っていてくださいました。時あたかも、大阪市の博物館群は、平成31年４月から地方独立行政法人へと移行する予定で、大きな変化が予想されるところです。このような時にこそ、深いご見識と幅広い人脈を持たれている脇田先生にご相談申し上げ、ご意見をお聞きし、我々の進むべき道を考えなければならないはずです。先生の突然のご逝去は、当館にとって大きな痛手です。

私は、平成26年４月より館長を引き継がせていただいておりますが、先生亡き後、先生の育てられました当館を、先生の示された方向性を十分心に刻みながら見守っていきたいと思います。

大阪歴史博物館　研究紀要
第17号　１－２ページ　2019年3月

略歴等

経歴（大阪市関連）

平成10年５月　大阪市教育委員会事務局顧問
平成12年３月　財団法人大阪市文化財協会理事
平成12年６月　財団法人大阪市文化財協会理事長
平成13年11月　大阪歴史博物館館長
平成22年４月　財団法人大阪市博物館協会会長
平成26年３月　館長退任
平成26年６月　公益財団法人大阪市博物館協会会長退任
平成30年３月　ご逝去　享年86歳

おもな著書

『寺内町の研究』（監修）第１巻～第３巻、法蔵館、平成10年10～11月
『大坂時代と秀吉』小学館、平成11年９月
『近世の大坂―国際交流フォーラム―』（共編）大阪大学出版会、平成12年５月
『近世身分制と被差別部落』部落問題研究所、平成13年11月
『図説大坂―天下の台所・大坂―』（監修）学習研究社、平成15年８月
『物語京都の歴史―花の都の二千年―』（共著）中央公論社、平成20年１月

おもな事業

平成13年12月　国際シンポジウム「知の冒険者たち―近世大坂の学問と文化―」
平成14年３月　日韓文化交流特別展「韓国の名宝」
平成15年10月　特別展「よみがえる銅―南蛮吹きと住友銅吹所―」
平成16年10月　大韓民国国立大邱博物館と学術交流協定
平成17年10月　「日英交流大坂歌舞伎展―上方役者絵と都市文化―」
平成23年11月　開館10周年記念シンポジウム「秀吉の大坂城と城下町―首都大坂の時代―」

酒井一光主任学芸員を悼む

栄原　永遠男

酒井一光さんは、平成８年（1996）４月に大阪市立博物館の建築史担当の学芸員に着任しました。大阪歴史博物館（当時は、（仮称）大阪市立新博物館・考古資料センター）建設準備作業において、常設展示に製作が計画された大坂の町並みなどの建築物の模型や大型造作物の監修を期待されての採用でした。市立博物館にとって新分野の学芸員であり、酒井さんの学芸員活動は、担当すべき建築分野の館蔵品が１点もない状況からスタートしました。

彼は、近世以前の建築史を専門としてきましたので、当初は社寺等の部材、瓦、図面などを収集していましたが、新博物館の展示計画や、大阪市という大都市のフィールドにおいて、近代建築と向き合っていきました。レンガやタイル、瓦、照明器具、手摺り、金物、ステンドグラスなど、その建築物の最も特徴的な部材を収集することで、巨大な建築物の一部を博物館資料とすることを始め、建築分野の収集スタイルとして定着させました。特に煉瓦やタイルに注目し、また大阪にゆかりの建築家の関係資料の収集にもつとめ、どちらも特別展の開催に結び付けました。

研究面においても、大阪の近代建築、建築家に関する論考を残し、一方で研究成果を生かした普及的な記事を数多く書き、連載も抱えていました。単著には、窓に注目して建築の魅力を紹介した『窓から読みとく近代建築』（2006年）があります。亡くなる直前まで執筆を続け、没後に出された記事（７月『大阪春秋』171、９月『建築史学』71）は絶筆に近いものでしょう。

普及教育活動においては、近代建築等の見学会「建築史探偵団」を市立博物館時代から立ち上げ、市博・歴博の人気のプログラムのひとつにしました。博物館外の企画にも多く関わり、大阪の近代建築が親しまれる裾野を広げる活動にもつとめました。生真面目な独特の語り口で建築の魅力を参加者に伝え、多くの方々から親しまれる存在でした。

酒井さんの病気は、2016年12月に見つかり、闘病生活に入りました。入退院を何度か繰り返しながらも、長期の休暇は少なく、亡くなる直前まで博物館に断続的に出勤されました。継続してきた共同研究や、展示更新作業など、同僚の助けを借りながらも今できる仕事はやるという姿勢は崩しませんでした。支えるご家族のご心労は並大抵なものではなかったと思います。2018年春には、次年度の特集展示の企画書を作り、冗談交じりに上司に示しています。村野藤吾に関わる展示案でした。本気だったと思いますが、計画を進められないことは、彼も認めざるを得なかったのでしょう。

2018年６月20日午後１時15分、酒井一光さんは尼崎市内の病院で逝去されました。亡くなる直前に病院に見舞った私に「学芸員として歴博で働くことができてよかった」と語ってくれました。2018年４月の常設展示「大阪新歌舞伎座の建築」が最後の展示でした。

学芸員の仕事が大好きで、歴博に多くの足跡を残してくれた酒井さんのご冥福を心からお祈り申し上げます。

大阪歴史博物館　研究紀要
第17号　３－６ページ　2019年3月

故・酒井一光氏の経歴と業績（抄録）

昭和43年（1968）10月４日生まれ
平成５年（1993）３月　東京理科大学工学部建築学科卒業
平成８年（1996）３月　東京大学大学院工学系研究科建築学専攻博士課程中途退学
平成８年（1996）４月　大阪市立博物館 学芸課 学芸員（平成13年11月～大阪歴史博物館）
平成25年（2013）４月　大阪歴史博物館 企画広報課 主任学芸員
平成30年（2018）６月20日　逝去

【展覧会担当】（特別展・特別陳列は展覧会図録、特集展示は小冊子を編著）
平成10年（1998）１～３月　特別陳列「描かれた聖域と名所―寺社境内図の世界―」
平成11年（1999）４～５月　特別陳列「岩本栄之助と大阪市中央公会堂」
平成14年（2002）10～12月　特集展示「大大阪時代の建築」
平成15年（2003）５～７月　特集展示「摂河泉の寺社境内図と造営資料」
平成18年（2006）10～12月　特別展　「煉瓦のまち　タイルのまち―近代建築と都市の風景―」
平成19年（2007）５～７月　特集展示「生誕120年　大阪が生んだ偉才　建築家・中村順平」
平成20年（2008）10～12月　特集展示「90周年記念　大阪市中央公会堂の建築・美術・舞台」
平成22年（2010）６～７月　特集展示「日本建築協会と関西の建築界」
平成23年（2011）７～９月　特別展　「民都大阪の建築力」
平成24年（2012）４～５月　特集展示「中村順平　建築芸術の探究」
平成26年（2014）９～10月　特別展　「村野藤吾　やわらかな建築とインテリア」

【館蔵資料集】
『大阪歴史博物館館蔵資料集５ 建築家 中村順平資料』2009年
『大阪歴史博物館館蔵資料集10 建築部材』2013年
『大阪歴史博物館館蔵資料集14 建築家 中村順平資料２』2018年

【共同研究報告書】
「照西寺本吉崎御坊絵図の史料的検討」（共同執筆）『大阪学調査研究報告書』２（中世大阪の都市機能と構造に関する調査研究）、大阪市立博物館、1999年
「大阪を中心とした郷土建築座談会（平成19年12月１日）」『大阪歴史博物館共同研究成果報告書』３、大阪歴史博物館、2009年
「中村順平画『前橋八幡宮透視図』と実現した社殿について」『大阪歴史博物館共同研究成果報告書』４、大阪歴史博物館、2010年
「木津家に伝来する製図道具・建築図面に関する一考察」『大阪歴史博物館共同研究成果報告書』８、大阪歴史博物館、2014年
『大阪歴史博物館共同研究成果報告書』12（中村順平のスケッチブックと図面類の画題・作画時期解明に関する研究）大阪歴史博物館、2018年（編著）

【著書】（単著）
『窓から読みとく近代建築』学芸出版社、2006年

【著書】（共著）

『建築MAP大阪／神戸』TOTO出版、1999年
『日本建築協会80年史』日本建築協会、1999年
『博物館展示・教育論』（博物館学シリーズ３）樹村房、2000年
『社寺境内図資料集成２』国立歴史民俗博物館、2002年
『水都の風景と記憶　大阪府近代建築ガイドブック』大阪府教育委員会、2004年
『夕陽丘の寺院と寺町調査報告書』大阪市教育委員会事務局、2006年３月
『大阪のひきだし：都市再生フィールドノート』橋爪紳也ほか著、鹿島出版会、2006年
『大阪府の近代化遺産：大阪府近代化遺産（建造物等）総合調査報告書』（第４節 官公庁・軍事施設の建築）、大阪府教育委員会、2007年
『大大阪モダン建築：輝きの原点。大阪モダンストリートを歩く。』青幻舎、2007年
『大阪大学総合学術博物館叢書４　映画「大大阪観光」の世界』、2009年
『日本近代建築大全〈西日本編〉』講談社、2010年
『重要文化財 泉布観：明治初年の息吹をいまに伝える建造物』（大阪歴史博物館編）、大阪市、2013年
『関西のモダニズム建築：1920年代～60年代、空間にあらわれた合理・抽象・改革』淡交社、2014年
『大阪名所図解（城郭・寺社のかたち）』140B、2014年
『国登録有形文化財（建造物）観心寺恩賜講堂総合調査報告書』河内長野市教育委員会、2016年
『モダンエイジの建築　『建築と社会』を再読する』日本建築協会、2017年
『日本建築協会100年史　1917-2017』日本建築協会、2017年

【論文など】

「ポンプ圧送を想定した静加圧実験による高性能AE減水剤コンクリートの性状に関する研究」その１～５『日本建築学会学術講演梗概集1993』A、1993年
「近世尾張地方における「尾張造り」と「権現造り」について」『日本建築学会学術講演梗概集1995』F-２分冊、1995年
「近世後期以降の知立神社の境内の変遷（１）～（２）」『日本建築学会東海支部研究報告集』34、1996年
「桐生本町における機業と四間取り型居宅」『日本建築学会学術講演梗概集1996』F-２分冊、日本建築学会、1996年
「ローカリティの可能性」『建築雑誌』1396、日本建築学会、1996年
「近代大阪と泉布観」『大阪市立博物館研究紀要』29、1997年
「大阪市における明治天皇記念館青年道場の計画案について」『日本建築学会近畿支部研究報告集. 計画系』37、1997年
「歴史的建造物をめぐる認識の問題」『建築医たちの神戸北野』中央公論美術出版、1998年
「神仏分離による寺社境内の建造物の移築・転用―摂津の事例について―」『大阪市立博物館研究紀要』32、2000年
「博物館における建築調査活動―寺谷家住宅・廣瀬家住宅を例として―」『大阪市立博物館研究紀要』33、2001年
「建築家・本間乙彦と〈郷土建築〉保存論」『日本建築学会学術講演梗概集2003』F-２分冊、2003年
「建築家・片岡安による大阪遷都論について」『日本建築学会近畿支部研究報告集. 計画系』44、2004年

「吉村長慶〈畿内遷都論〉について」『大阪歴史博物館研究紀要』３、2004年
「高津宮の神輿蔵について」『大阪の歴史と文化財』15、大阪市文化財協会、2005年
「近代大阪の都市景観と建築家　安井武雄と本間乙彦の活動を通して」『大阪市とハンブルグ市をめぐる都市・市民・文化・大学報告書』第４分冊、大阪市立大学大学院文学研究科プロジェクト研究会、2005年
「ユニチカ記念館に用いられた煉瓦とその使用法について」『日本建築学会学術講演梗概集2005年』F-２分冊、2005年
「旧大阪中央電話局天王寺分局の建築について」『大阪歴史博物館研究紀要』４、2005年
「『大大阪』時代の都市景観と建築家の役割」『近代大阪と都市文化』（大阪市立大学文学研究科叢書；第４巻）、清文堂出版、2006年
「戦時下大阪における女性建築家の育成　建築工芸技術研究所婦人建築研究部の卒業生への聞き取りを通して」（小川知子・酒井一光）『大阪歴史博物館研究紀要』５、2006年
「ライトは採光をデザインした」『水と風と光のタイル―F.L.ライトがつくった土のデザイン』INAX出版、2007年
「大阪府立天王寺高等学校旧本館の建築と玄関広間のタイルについて」（瀧華正・酒井一光）『大阪歴史博物館研究紀要』６、2007年
「膨張する"大大阪"イメージ　大阪城天守閣復興と城内の聖域化」『大大阪イメージ：増殖するマンモス/モダン都市の幻像』創元社、2007年
「大阪における煉瓦製造と研究の課題 」『月刊考古学ジャーナル』569、ニューサイエンス社、2008年
「三田学園第一寮について」『日本建築学会近畿支部研究報告集. 計画系』48、2008年
「大阪市交通局旧庁舎の建築部材について」『大阪歴史博物館研究紀要』７、2008年
「建築部材を通してみた旧大阪市立愛日小学校・同集英小学校校舎の特色」『大阪歴史博物館研究紀要』８号、2010年
「近代日本の建築と窓」『建築と社会』1084、日本建築協会、2012年
「中村順平の設計した商店建築―Yukiya 洋裁店と尾上美粧院について―」『大阪歴史博物館研究紀要』11、2013年
「建築家・中村順平の設計活動についての一考察」『日本建築学会近畿支部研究報告集. 計画系』53、2013年
「村野藤吾のタイル技法に関する一考察」『大阪歴史博物館研究紀要』13、2015年
「鉄筋コンクリート造時代のタイルとテラコッタ」『近代建築 ものづくりの挑戦』竹中大工道具館、2015年
「武田五一と「建築標本」」『武田五一の建築標本：近代を語る材料とデザイン』LIXIL出版、2017年
「歴史系博物館における建築の展示をめぐって」『館長と学ぼう大阪の新しい歴史』１、東方出版、2017年

【雑誌連載】（連載以外の建築紹介等の記事多数）

「発掘the OSAKA」１～72『大阪人（OSAKA-JIN)』58-５～62-５、大阪都市協会／大阪市都市工学情報センター、2002～2008年
「新タイル建築探訪」１～86『タイルの本』０～105、タイルの本編集室株式会社、2007～2016年